

慢性疾患患者の防災教育

—訪問看護師及び訪問看護利用者・家族の防災意識向上に向けて—

菊池 和子*1, 工藤 朋子*1, 加賀谷聡子*2, 高橋 栄子*3

Disaster education for the patients with chronic diseases

—Action for improving disaster prevention of visiting nurses and the patients with chronic diseases and their families—

Kazuko Kikuchi*1, Tomoko Kudo*1, Toshiko Kagaya*2, Eiko Takahashi*3

キーワード：慢性疾患患者の防災教育，訪問看護師，訪問看護利用者マップ，防災リーフレット

I. はじめに

慢性疾患患者の災害看護研究グループでは，災害によって慢性疾患患者がどのような影響を受けるのか，その影響に対してどのような備えが必要か，慢性疾患患者の防災教育に関する研究を平成11年度から14年度に行ってきた。まず，慢性疾患患者に対する調査を踏まえ^{1)~3)}，防災パンフレットを作成した。その受け止め方についてのアンケート調査を行った結果⁴⁾，概ね好評であったが，高齢者や寝たきりの療養者は，本人及び家族だけでは対応が難しいことが示唆された。平成14年度には在宅療養者版防災パンフレット（以下在宅療養者版パンフレットとする）の作成を行った。在宅療養者版パンフレットの構成は，総論編には「医療面の備え」，障害や日常生活行動の低下等による「避難に手助けが必要な方とご家族へ」の留意点，「災害時には，こんな点に注意しましょう」として制限食等，避難生活時の一般的留意事項を述べた。各論編では，「経管栄養」「持続点滴」「CAPD（腹膜透析）」「HOT（在宅酸素療法）」「気管切開・吸引処置」「人工呼吸器の医療処置」および「こころの病をもつ方」を取り上げ，災害への備えと災害時の留意点について述べた。

以上の経過を踏まえて，今回は，在宅療養者版パンフレットの活用状況を明らかにし，有効な活用方法を検討すること，高齢者や寝たきりの療養

者に対する災害時の対策を検討し，訪問看護師及び訪問看護利用者（以下利用者とする），家族の防災意識向上に向けた活動を行ったので報告する。

II. 目的

訪問看護師及び利用者，家族の防災意識向上を図る。

目的達成のために，以下の目標を設定した。

1. 在宅療養者版パンフレットの活用状況について，訪問看護師と利用者，家族の両側面から明らかにする。
2. 1の結果を踏まえて，訪問看護師及び利用者，家族の防災意識向上を図るための介入を行う。

III. 方法

1. 在宅療養者版パンフレットの活用状況に関する調査について

対象は，I県下の訪問看護ステーションをリストからピックアップし，その全て（48箇所）に質問紙を送付，各ステーションの代表者1名に回答を依頼した。利用者，家族については，訪問看護師に慢性疾患で在宅療養者版パンフレットの対象となりうる対象者を選択してもらい，調査を実施した。調査方法は，訪問看護師に対しては，調査の趣旨を記入した質問紙を配布，

*1 岩手県立大学看護学部

*2 聖路加看護大学大学院博士後期課程

*3 康済会訪問看護ステーション滝沢

利用者及び家族に関しては、訪問看護師を通じて質問紙の葉書を挿入した在宅療養者版パンフレット（写真1）10～50部を配布。6カ月後までに郵送で回収した。

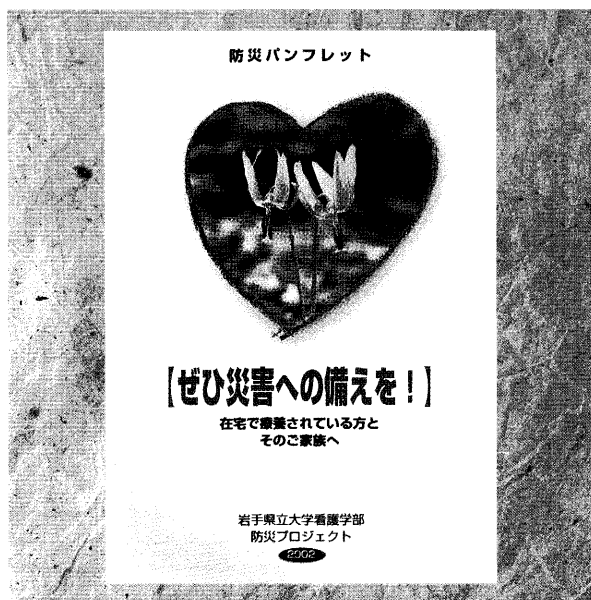


写真1. 在宅療養者版防災パンフレット

<質問内容>

利用者・家族に対して

在宅療養者版パンフレットの役立ち度、役立ちそうな項目、在宅療養者版パンフレットを読んで災害に向けて準備しようと思うか、在宅療養者版パンフレットに対する意見、感想。

訪問看護ステーション職員に対して

在宅療養者版パンフレットの役立ち度、役立ちそうな項目、高齢者や寝たきりの利用者に対する災害時の対策について、在宅療養者版パンフレットの配布状況、活用状況、在宅療養者版パンフレットに対する意見、感想。

2. 訪問看護師及び利用者・家族の防災意識向上を図るための介入

1. の調査結果から

1) 在宅療養者版パンフレットの有効な活用方法について検討した結果及び調査結果の公表等を通じて、訪問看護師の防災意識の向上を図る。

2) 在宅療養中の特に高齢者や寝たきりの患者に対する防災について検討し、実践する。

倫理的配慮

調査の趣旨を書面で説明し自由意思で回答

ができるように配慮した。また、得られた回答は、統計的に処理を行うか、質的データについては施設や個人名が特定されないよう十分に注意して取り扱うようにし、プライバシーが確保されるように配慮した。

IV. 結果

1. 在宅療養者版パンフレットの活用状況に関する調査結果

1. 在宅療養者版パンフレットに関する利用者・家族の回答

回答者数は28名（利用者4名、家族24名）であり、平均年齢は63.2歳、男性5名、女性23名であった。

(1) 在宅療養者版パンフレットの役立ち度

在宅療養者版パンフレットは役立ちそうかについては「はい」と答えたものは28名（100%）であった。

6割以上のものが役立つと回答した項目は「医療面での備えについて」「避難に手助けが必要な方とご家族へ」「災害時にはこんな点に注意しましょう」であった（図1）。参考までにそれらの項目の内容を資料1に示した。

(2) 在宅療養者版パンフレットを読んで災害に向けて何か準備しようと思うかについては、「思う」と回答したものが25名（89.3%）であった。在宅療養者版パンフレットに対する意見や感想では、「良い物だ、しかし、その場になってみないとわからない」「近所の方達の支援もどれくらい受けれるか不安だ」「長年、寝たきりでいるため、急な時のための大まかなものだけダンボールにつめている、パンフレットを読んで準備が必要と思った」「最近の地震後であり、タイムリーであった。」「もっとわかりやすい言葉で説明して欲しい」「もっと字を大きくフリガナつきだと良い」「必要なセットの写真が入ると良い」などの意見があった。

2. 訪問看護ステーション職員の回答

回答者数は15名（回収率31.3%）で、回答者の平均年齢は42.7歳（26～58歳）で、訪問

看護経験年数は、平均6.6年（2～22年）であった。

（1）在宅療養者版パンフレットの役立ち度

在宅療養者版パンフレットは役に立ちそうかについては、「はい」と回答したものが14名（有効回答14名のため100%）であった。役立ちそうな項目では、「医療面の備えについて」「在宅酸素療法を行っている

方へ」「経管栄養を行っている方へ」「人工呼吸器をお使いの方へ」「気管切開・吸引処置を行っている方へ」「災害時にはこんな点に注意しましょう」「避難に手助けが必要な方とご家族へ」の項目が6割以上であった（図2）。

（2）在宅療養者版パンフレット活用状況

在宅療養者版パンフレットを読んで、災

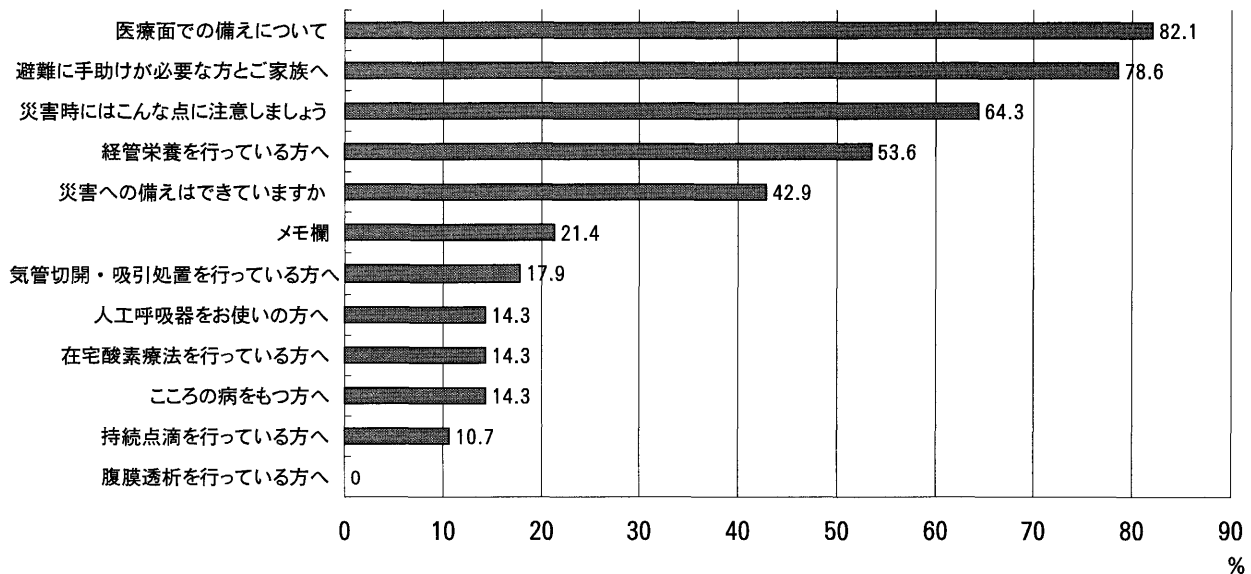


図1. 利用者・家族28名の役立つ項目の選択率（複数回答）

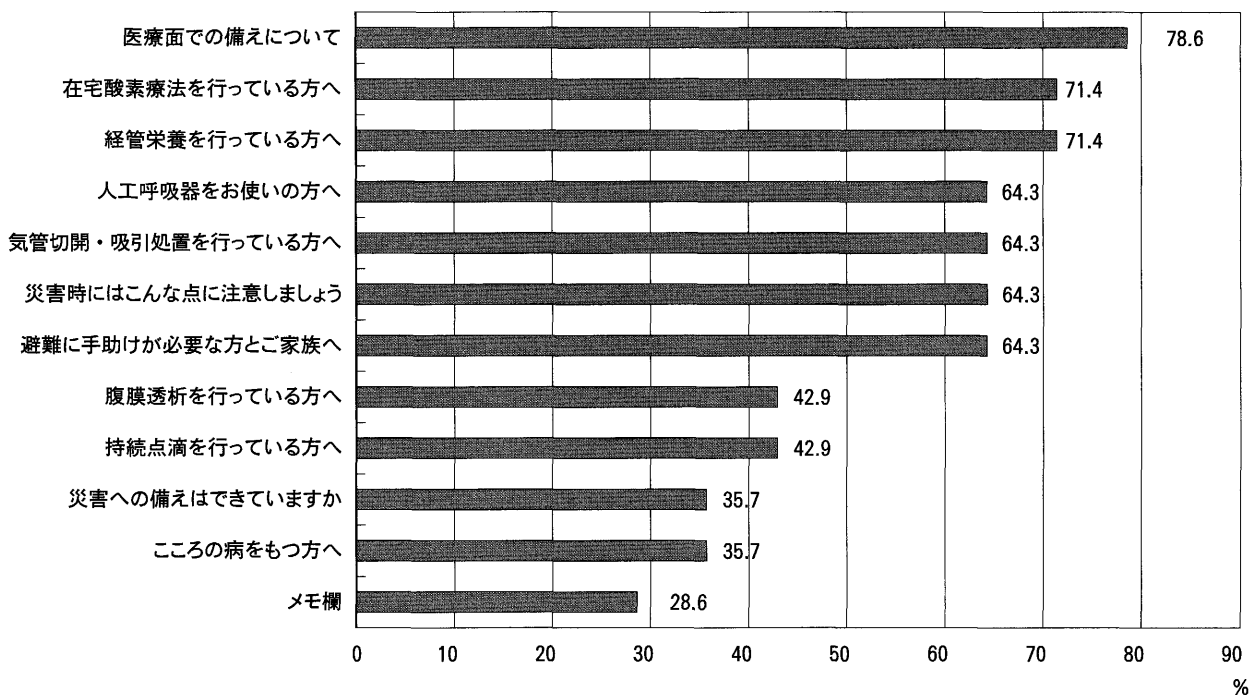


図2. 訪問看護師15名の役立つ項目の選択率（複数回答）

資料 1 在宅療養者版パンフレットで 6 割以上の者が役立つと回答した項目の内容

医療面での備えについて

1. 自分の病名や治療内容を説明できるようにしておきましょう。特に医療処置を在宅で行っている方は、その内容を書きとめておきましょう。
2. 薬の名前と飲み方を書きとめ、持ち出せるようにしておきましょう。
薬局で処方内容の用紙を渡されている方はとじておき、非常時には最新のものを持ち出しましょう。
避難時には、現在飲んでいるお薬は全部持って避難しましょう。
3. いざという時にお薬や処置・介護のための物品を持って避難できるよう、一定の場所に保管し、家族にも知らせておきましょう。
4. 処置のある方は、必要な薬剤、器具、器材は多めに準備しておいた方が安心です。例としてお示します
ので、医療者と相談してみましょう。
＜例＞経管栄養の方ー普段使っている栄養剤または市販の缶タイプの栄養剤 2～3 日分
中心静脈栄養の方ー点滴液、点滴液交換用の物品 2～3 日分
CAPD（携帯型腹膜透析）の方ーバック及び使用物品 2～3 日分
在宅酸素療法の方ー外出用の携帯用酸素ボンベ
気管切開中や吸引の必要な方ー予備のカニューレ、小型の吸引器、吸引チューブ 4～5 日分
5. 備えた薬や物品などは定期的に有効期限を確認し、期限内に使い切り、新しいものと交換するようにしましょう。機器の日常的な整備・点検を行い、機器の取り扱い説明書を保管・常備しておきましょう。充電が必要な機器については、バッテリーを確認しておきましょう。
6. 療養手帳・老人手帳、障害者手帳や保険証を携帯しましょう。手帳には主治医や看護師から最新の状態を書いてもらいましょう。また、自分でも積極的に自分の状態を書き留めておきましょう。（手帳をお持ちでない方は、このパンフレットの最後のページをご利用ください。）
7. かかりつけの病院と連絡がとれない場合の対応や、災害時にどのような備えが必要か、災害時の対応について、主治医や看護師と相談してみる事をおすすめします。機器をご使用の方は業者さん、訪問看護やヘルパー訪問を受けている方はサービス事業者の電話番号を控えておき、災害時の連絡手段を相談しておきましょう。
8. 最低 3 日分の水や非常食を備えておきましょう。
薬の内服に水は欠かせないものであり、病気を悪くしないためにも水を十分に備えましょう。また、非常食の備えも健康な人より確実に行いましょう。持ち出し袋の中身は、定期的に確認することを忘れずに。
9. おひとり暮らしの方や、高齢者世帯の方、在宅で医療処置を行っている方は特に、頼りにできる方や、医療・福祉の相談窓口を作っておくことをおすすめします。

避難に手助けが必要な方とご家族へ

1. 自宅から避難する際に支障がないように、避難経路の確保に日頃から注意しましょう。避難経路は災害時・緊急時を想定し、綿密に確認しておきましょう。実際に避難時に使う手段（杖や車椅子など）で移動してみましょう。エレベーターが動かなかったとき、玄関の扉が開かなかったとき、室内の物が倒れてきたとき、電話がつながらなくなったときなどの避難方法も検討しておく必要があります。
2. 杖や車椅子などが災害時に確実に使えるようにし、一定の場所に置いておきましょう。
3. 誰が避難時に付き添ってくれるのか、日中や夜間を想定し複数の支援体制を考えておきましょう。
4. 自宅に一人での時の、家族や近所の方との連絡方法について確認しておきましょう。
5. 日頃から避難訓練に参加し、改善を希望する点を市町村などに伝えておきましょう。
6. 避難後の生活を考え、当面必要なものを用意しておくといでしょう。
例）寝たきりの方は紙おむつ、下着・衣類（避難所は夏暑く、冬寒いので、何枚か用意する）、ビニールシート（おむつ交換時や着替えのときのために）

災害時には、こんな点に注意しましょう

1. 災害時には治療食の入手が困難になります。出された食事はなるべく召し上がるようにし、食事療法を行っている方は、普段の制限に合わせた調節が必要となります。（例：うす味にする、カロリーを調節するなど）食中毒が心配されますので、残したものは廃棄するようにしましょう。
2. トイレの環境が悪く、便秘がちとなることが報告されています。特に慢性疾患のある方は注意が必要です。朝コップ一杯の水を飲んだり、便意があったら我慢しないで排泄を試みましょう。
環境の変化による睡眠不足も報告されています。日中は日光に当たり活動し、夜は休むといったリズムのある生活に心がけましょう。

害について意識するようになった、が12名(85.7%)、ステーション内で話し合ってみようと思っている9名(64.3%)、利用者や家族と話し合った、が5名(35.7%)、緊急時の連絡先の確認を行った2名(14.3%)であった。

(3) 在宅療養者版パンフレットに対する感想、意見、要望

在宅療養者版パンフレットに対する感想、意見、要望(表1)では、類似した内容を集めると、『防災意識向上』『避難用物品を準備』『パンフレットを常備』『医療従事者や地域の支援体制の必要性』『実感がわかない』『パンフレットについての要望』の項目が出された。『防災意識向上』では、パンフレットをきっかけとして、ステーションで防災について考えることになったり、利用者への意識づけを行いたい等の感想が出された。『避難用物品を準備』では、避難用物品を揃えることに役立ったことがうかがえる。

一方、『医療従事者や地域の支援体制の必要性』の内容として「対象者や介護者がいくら備えたとしても医療従事者や地域の支援体制が確立されなければ不安は大きいと思う。」といった意見もあった。また、『パンフレットについての要望』では、パンフレットは見にくいので、大きな字にしてはどうか、専門用語が多すぎる、などの課題が示された。

(4) 高齢者や寝たきりの利用者に対する災害時の対策について

高齢者や寝たきりの利用者に対する災害時の対策について、考えている13名(86.7%)であり、考えていない2名(13.3%)であった。考えている内容についての自由記述では、類似した内容を集めると、『安否確認の方法』『マニュアルの作成』『避難について』『災害時の対応を利用者と話し合う』『寝たきり・独居の人のマップ作成』『ケアマネージャー・ボランティア等との連絡』『利用者に普段から近所の人に協力

表1 パンフレットに関する訪問看護師の感想・意見・要望

項 目	内 容
防災意識向上	<ul style="list-style-type: none"> ・忘れた頃に災害が起こるので考えておかなければならないと思っても、ズルズルと何も準備できなかったのととても助かった。 ・普段はあまり気にしていないことだが、いざ災害になった時、私達ステーションのスタッフはどうしたらよいか考えるきっかけになり、とても良かった。 ・突然の災害に利用者さんが困惑しないように日頃から意識づけしていきたいと思っている。 ・最近地震が続きどうすればいいのかと不安のある時期だが自分の地域は大丈夫と思っている人が多い。今後もっと意識づけが必要になってくると思う。
避難用物品を準備	<ul style="list-style-type: none"> ・最近の地震で、経管栄養の利用者から「とても助かった、パンフレットを見て避難用の物品を揃えられた」との声があった。
パンフレットを常備	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、利用者宅のファイルへ緊急時の連絡先リストと共にパンフも置いてもらうように現在準備中。
医療従事者や地域の支援体制の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者や介護者がいくら備えたとしても、私達医療従事者や地域の支援体制が確立されなければ不安は大きいと思う。
実感がわかない	<ul style="list-style-type: none"> ・身近に災害が起きないと、実際の問題としては感じられない。
パンフレットについての要望	<ul style="list-style-type: none"> ・文字の部分がブルーの色で濃淡されていて見にくい。大事なポイントは大きな字、色を変えてはどうか。 ・介護者が読むのには少し専門用語が多い。 ・わかりやすい絵もところどころに入ると良い。 ・対象者・介護者ともに高齢な方が多く、字を読むこと自体大変だと感じたり、用語なども難しいと感じられるようだ。

してもらるように話す』『町が発行した職員災害ハンドブックどおり行動』の項目が出された(表2)。

『安否確認の方法』では、電話連絡や訪問での確認、連絡網が出された。『マニュアルの作成』では、職員連絡マニュアルや利用者安否確認訪問マニュアル、一人暮らしの方の連絡先や、寝たきりの方の搬送方法や持ち出すものについて、が出された。『避難について』は、安全な場所への避難、避難方法手順、があげられた。

2. 訪問看護師及び利用者・家族の防災意識の向上を図るための介入

1) 在宅療養者版パンフレットの有効な活用方法について検討し、実践する。

(1) 防災リーフレットの作成

アンケート調査結果から、利用者・家族の回答で「パンフレットを読んで災害に向けて準備しようと思うか」については「思う」が9割以上を占めている。このことから在宅療養者版パンフレットの有効性が示

唆された。しかし、項目が多いこと、職員からの回答にみられた、字が小さくて読みにくい点を考え、以下の点に考慮し防災リーフレット(写真2)を作成した。

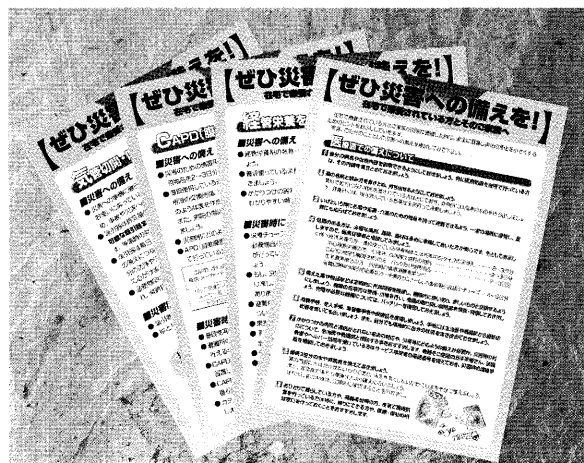


写真2. 防災リーフレット

①医療処置6項目を含む在宅療養者版パンフレットを利用者別に活用できるようにA4版の両面に印刷する。例えば先に述べた役立ち度が高く、全ての人に共通す

表2 高齢者や寝たきりの利用者に対する訪問看護師の災害時の対策について

項 目	内 容
安否確認の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・電話連絡で安否確認。 ・訪問にて安否確認。 ・緊急時連絡と同様に災害時も連絡網を通じて連絡を頂くことにしている。
マニュアルの作成	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時職員連絡マニュアルの作成やコース別利用者安否訪問マニュアルの作成。 ・災害時の対応やステーションにおける安否確認。 ・一人暮らしの方の連絡先等。 ・寝たきりの人を運ぶときの方法とか何を持ち出すか等。
避難について	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な場所への避難確認、家族の協力体制。 ・避難方法手順。
災害時の対応を利用者と話し合う	<ul style="list-style-type: none"> ・医療依存度が高い利用者さんの介護者とは停電時等の対策を話し合っている。
寝たきり・独居の人のマップ作成	<ul style="list-style-type: none"> ・寝たきり、独居の人のマップを作っておき日頃から民生委員や地域の担当者が気にかけておく。
ケアマネジャー・ボランティア等との連絡	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジャー及び地域でのボランティア等との連絡を十分に取る。
利用者に普段から近所の人に協力してもらうように話す	<ul style="list-style-type: none"> ・電話がつながりにくいし訪問に行くにも渋滞などがあり具体的な対策がステーションとして難しい。利用者に普段から近所の人に協力してもらうように話す。
町が発行した職員災害ハンドブックどおり行動	<ul style="list-style-type: none"> ・町が発行した職員災害ハンドブックどおり行動。ただ高齢者、寝たきりと決まっていなくて十分とはいかないと思う。

る項目を表裏とする。表を「医療面の備えについて」裏面には「避難に手助けが必要な方とご家族へ」「災害時にはこんな点に注意しましょう」を掲載した。各論編は関連のある項目を表裏とし、例えば、表を「気管切開・吸引処置を行っている方へ」裏面「人工呼吸器をお使いの方へ」を載せた。

②字を大きく見やすく工夫した。

③常に見える場所に立てかけられるようにやや厚手の紙を使用した。

作成した防災リーフレットは平成16年3月に訪問看護ステーション等を通じて利用者に配布するよう、依頼した。

＜防災リーフレットに対する看護職員等の反応＞

看護職員等からの反応は、「対象別に必要なものだけに絞り込んであり、端的でわかりやすい」「用紙が厚いのでいつでも見られるところに置いておける」「高齢者などにはもう少しポイントだけに絞った方が良い」、などの反応があった。

2) 在宅療養中の特に高齢者や寝たきりの患者に対する防災について検討し、実践する

(1) 訪問看護ステーションの利用者マップの作成 (平成15年11月作成)

＜目的＞

アンケート調査結果、訪問看護ステーション職員の回答では、災害対策にバラツキがあり、在宅療養者版パンフレット配布により「災害について自分が意識するようになった」が4割であった。また、高齢者や寝たきりの在宅療養者の対応については「マップをつくっておき日ごろから気にかけておく」等の回答を得た。

訪問看護ステーションの看護師は、定期的に訪問している利用者を中心に地域の分布状況を把握しており、ステーション利用者の全体的な分布を描くことは難しいと予測される。また、緊急時の対応としての連絡網があっても、災害時には電話がつかない状況も予測される。そこで、1訪問看護ステーションの協力を得て、訪問看護

ステーション職員が利用者全体の分布地域を把握し、職員の防災意識の継続と向上を図ることを目的としてマップ作成を試みた。

＜方法＞

利用者マップのベースとなる地図は、利用者の住んでいる市町村の道路地図を張り合わせた物を使用し、介護保険利用の要介護4及び5の者、医療保険利用の寝たきり状態にある者を赤ピン、独居老人を黄ピン、職員の居住地を黒ピン、訪問看護ステーションを緑ピンとしてマッピングした(写真3)。

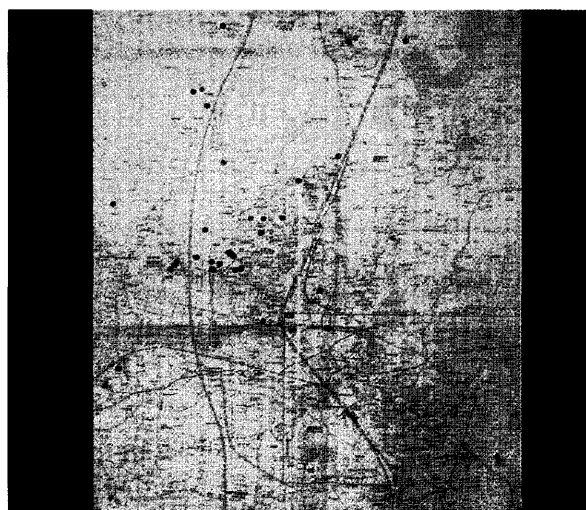


写真3. 訪問看護ステーション利用者マップ

＜訪問看護ステーション職員の反応＞

マップに対する職員の反応として以下のことがあげられた。

- ・利用者全体の分布状況が地図上で視覚で確認できる。
- ・利用者の中には訪問リハビリテーションのみの利用や訪問看護のみの利用等があるが利用者をマッピングすることで、他職種の職員が担当している利用者を把握できる。
- ・災害時に優先して対応しなければならない利用者が把握できる。
- ・災害時、利用者の近くに住んでいる職員による対応が可能と考えられる。これは例えば自分の家の近くの利用者に「薬があと何日分ありますか」など、声をかけることで、慢性疾患患者さんへの対応が可能となる。

(2) I 県訪問看護ステーション協議会研修会での訪問看護師及び利用者・家族の防災意識向上に向けての啓発

訪問看護師の防災意識の向上を目的として、在宅療養者版パンフレットの活用状況のアンケート調査結果と訪問看護ステーション利用者マップの作成結果について報告した。マップに関して、「自分のステーションでも作ってみたい」などの反応が得られた。

V. 考察

慢性疾患患者の防災教育の一環として在宅療養者版パンフレットの評価及び寝たきり者や独居者の対応について検討するためのアンケート調査から、在宅療養者版パンフレットでは医療面の備えや避難に手助けが必要な方々へ等の一般的な項目についての役立ち度が高かった。これは長谷川ら⁵⁾ (2005) の報告にもある在宅利用者とその家族の調査で「災害について不安なこと」は「在宅療養者の救助をどうするか」が多く、災害時知りたいたいこととして「病人の搬送、避難方法」「災害時における近隣の協力体制」「災害時の対応」などとしていることから役立ち度が高いことが伺える。

我々が作成した在宅療養者版パンフレットは、一般的な項目と対象別の内容で構成されている。今回、アンケート結果を踏まえて、在宅療養者版パンフレットの内容を対象別とし、用紙を厚くして防災リーフレットを作成したことは、端的でわかりやすい、いつでも見えるところに置ける等の反応から訪問看護ステーションの看護師及び利用者・家族の防災意識の向上に微力ながら寄与することができたものと考え、しかし、高齢者にとってはわかりにくい内容もあり、今後検討が必要である。

利用者マップの作成に関しては、視覚に訴えることで訪問看護師や他の職員が利用者の全体的な分布が色で把握しやすくなった、災害時に、どの地区を優先して対応すれば良いのかが簡単に見え、優先的に対応しなければならぬ利用者がわかりやすく把握できた、災害時電話が不通でも利用者の近くに住んでいる職員による対応が可能と考えられる等の効果があった。今後、新規利用者に対応する等の定期的なマップの更新により職員の防

災意識も向上するものと考え、

今回のマップでは、マッピングの対象者として、一人暮らしの方を含めたが、一人暮らしであっても近隣の方々のサポートが得られている方や、たとえ二人暮らしであっても、高齢者夫婦の場合は、老老介護の現実があり、頼りとする家族が離れて暮らしている場合もある。このような状況に合わせて、個々の訪問看護ステーションに応じた基準を決めてマップを作成する必要があると考えられる。また、気がかりな利用者については、その利用者の周辺が詳しくわかるよう、利用者を中心にかかりつけ医、地区の民生委員、近所で声をかけてくれる方など細かなマッピングをした地図をつくると、利用者を取り巻く地域のつながりが見えてくる。今後、地域の保健師等、行政機関や社会福祉協議会などとの連携により利用者へのより多くの支援が得られるものと考えられる。

福井集中豪雨を体験した訪問看護ステーションに勤務する澤邊 (2005) の報告⁶⁾によると、「災害発生時に自分たちはどう行動するのか、シミュレーションが全くできていなかったことに気づかされた」とし、「利用者別の災害時の対応の確認について、今後は一人一人の対応方法を紙面に記録し、災害に備える対策としたい」と述べている。在宅療養者版パンフレットや防災リーフレットについては、高齢者にとって難しい、といった反応があるように、その内容の吟味が必要であることと、パンフレットやリーフレットの中に訪問看護師が利用者に対応した助言を書き込める欄を設けるなどの工夫が望まれているように思う。

利用者マップに関しては、何階に住んでいるのかといった住宅事情などを記録することでより利用度の高いマップになるものと考えられる。訪問看護ステーションの利用者マップ作成の試みは、2004年2月に開催された岩手公衆衛生学会で発表⁷⁾し、会場から、このような取り組みが地域で行われる必要があり、今後の参考としたい、というご意見をいただいた。今回の取り組みが多く、訪問看護ステーションに広がり、利用者マップを関係職種や地域の方々と共有することで高齢者や寝たきりの方々が安心して暮らせるような地域づくりが望まれていると考える。

謝辞

本調査や活動にご協力いただきました皆様に深く感謝いたします。

引用文献

- 1) 太田明美, 布佐真理子他: 岩手山周辺における慢性疾患患児の親の災害への備え, 北日本看護学会誌, 5(1), 41-48, 2002.
- 2) 吉田千鶴子, 布佐真理子他: 岩手山周辺における慢性疾患患者の災害への備え, 日本災害看護学会誌, 2(2), 57, 2000.
- 3) 工藤朋子, 柴田千衣他: 有珠山噴火災害における慢性疾患患者の聞き取り調査, 第5回北日本看護学会学術集会プログラム講演集, 90, 2001.
- 4) 加賀谷聡子, 布佐真理子他: 慢性疾患患者を対象とした防災パンフレットの受け止め方, 日本災害看護学会誌, 4(2), 57, 2002.
- 5) 長谷川さおり, 花尻潤子他: 訪問看護ステーションにおける災害対策マニュアル作成の取り組みー在宅療養者とその家族, 訪問看護師との共同作成への試みー, 日本災害看護学会誌第7回年次大会講演集, 7(1), 103, 2005
- 6) 澤邊真智子: 昨年度の災害を経験して 福井集中豪雨 被災経験を今後の活動につなげるために, 訪問看護と介護, 10(2), 110-114, 2005.
- 7) 高橋栄子, 望月厚子他: 訪問看護師の防災意識向上の試みー利用者マップの作成ー, 岩手公衆衛生学会誌 第15回岩手公衆衛生学会総会講演集, 30-31, 2004.

参考文献

- 1) 木原孝久: 住民の支え合いマップ作成マニュアル 聴取から支援課題の抽出まで, 筒井書房, 2003.
- 2) 全国訪問看護事業協会監修: 訪問看護ステーション災害対応マニュアル, 厚生出版社, 2003.